

もう迷わない！雑誌目録の作り方（入力項目一覧表） - 所蔵編 -

A.主な所蔵レコード

A-1. 所蔵レコードは各参加機関固有のデータである。

A-2. 所蔵レコードには3つ特徴的なフィールドがある。

- |                  |                        |
|------------------|------------------------|
| 1.HLYR (所蔵年次データ) | HLYR:最古年次-最新年次         |
| 2.HLV (所蔵巻次データ)  | HLV:X(y) Xは巻レベル、yは号レベル |
| 3.CONT (受入継続表示)  | CONT:+ 継続予定は+、未定は空白    |

記入の原則

B.主なレコードの注意点を以下に記す。

項目名		マニュアル抜粋	注意事項	入力レベル
ID	所蔵レコードID			自動付与
CRTDT	レコード作成日付			
RNWDT	レコード修正日付			
BID	NC書誌レコードID			
FANO	参加組織レコードID		各参加機関があらかじめ「目録システム申請書」申請し、NIより付与されたID	センター
LIBABL	略称		各参加機関より、あらかじめ「目録システム申請書」で登録された略称名で付与される。	自動付与
LOC	配置コード		各参加機関の所蔵する資料の配置場所等を、あらかじめ目録システムに申請・登録されたコードで記録する。 ・資料の配置場所等に対応する、配置コードを記入する。[記入例] LOC:図 ・配置コード「空値」の場合 [記入例]LOC:	必須2
HLYR	通し年月次	17.2.1D D1,D5  D2  D3 D4 D6	所蔵する資料の巻次に対応する年次の範囲をデータ要素として記録する。 ・VLYRフィールド(巻次・年次に関する事項)の範囲を超えない。特にタイトル変遷には注意する。 ・所蔵する資料の号の中から、年次が最も古い号と最も新しい号を選択し、それぞれの号に対応する年次をハイフン(-)で結んで記入する。 「記載例」1998年 - 2005年 VLYR:1998-2005 ・中途に欠号が存在しても、データが連続していないことを示す必要はない。 ・4桁の西暦紀年を、アラビア数字を使用して記入する(2桁のものは4桁になおして記入する)。 ・西暦紀年以外の年次表示(元号、イスラム暦等)をもつ号に対しては、西暦紀年に変換して記入する。 ・所蔵する号の年次が同一年に収まる場合(1号だけしか所蔵していない場合を含む)もその同一年を二つ記入し、ハイフン(-)でつなぐ。 ・所蔵範囲内で巻次変更がある場合は、変更年次にセミコロン(;)を記入する。セミコロンの前後には空白を入れない。 ・複数年にまたがる年次の場合は、「最古年次」には最も古い年を、「最新年次」には最も新しい年を採用する。	必須1
HLV	巻号	17.2.2D  D1 D2 D7.1  D7.2 D8.2  D4,D10  D10(4) E6  E11	実際に所蔵する資料の巻次をデータ要素として記録する。 ・VLYRフィールド(巻次・年次に関する事項)の範囲を超えない。 ・所蔵する最初の号から最新の号までの巻次を記入する。 ・所蔵している号の巻次を記入し、欠号巻次は記入しない。 ・データは「巻レベル」と「号レベル」2階層で表現する。 ・逐次刊行物を構成する個々の資料に対して、番号等による順序付けを行う。「X(y)」 Xは巻レベル、yは号レベル ・巻次データは巻レベルを基準として記入する。巻レベルの数字の後、巻レベルに從属する号レベルの数字を括弧に収めて記入する。 「記入例」I23巻3号 HLV:23(3) ・号レベルでの欠号がない場合(=完全巻)は、巻レベルのデータのみ記入する。号レベルの記入は行わない。 ・数字以外の以外の字句や、元号、は削除し、記載はアラビア数字を使用する。西暦2桁のものは4桁になおして記入する。 ・不完全巻の表示(号レベルの欠号が1冊でもある巻)は2つの方法で所蔵状態を記入する。 (1)括弧書き内に実際に所蔵する号レベルの数字を列記する。 (2)号レベルの数字を記入せずに丸括弧だけ添える。 (2)の方法に限り不完全巻ばかりの連続所蔵をハイフン(-)で結んで、記入することができる。 巻次変換がある場合 ・所蔵巻次内に巻次変更がある場合はセミコロン(;)を挿入する。セミコロンの前後に空白をいれない。 ただし、タイトルに「2nd Series」や「New Series」など逐次刊行物全体に関わる番号付けの追記削除は巻次変遷とはみなさない。 ・ハイフンで結ぶことのできるものは、下記ケースに限る。 (1)号レベルの相互、(2)完全巻の相互、(3)括弧のみを添えた形の不完全巻相互 ・巻次変更が存在するが、変更直前直後の号を所蔵していない場合であっても、変更前の巻次と変更後の巻次の間にはセミコロンを記入する	必須1
CONT	受入継続表示		CONTフィールドには、目録対象資料についての受入継続予定の存在をコード化して記入する。 目録対象資料を、所蔵する最新の号以降も継続して受け入れてゆく予定がある場合は[+]を記入する。 [+]は継続所蔵を意味するものではないので、必ず所蔵する最新の号のデータまで記入した上で記入する。	必須2
CLN	請求番号		記述対象資料にかかわる参加館の記号をデータ記録できる。[記入例]CLN:Z40]S 複数の請求記号(例えば、複本等の請求記号)を記録することができる。 各請求記号の間を区切る記号は、各参加館が定めるものとする。[記載例]CLN:UNBOUND]    D	選択
LDF	図書館定義フィールド		雑誌書誌レコードに記録できないが、各参加組織が必要とする、記述対象資料にかかわる情報を記録するために設けられたフィールドである。 記述対象資料にかかわる各種情報を記録できる。	選択
CPYNT	コピーノートフィールド		当該電子ジャーナルについて、ILLサービスにおいて利用できる場合、フィールド冒頭に「ILL可」と記述する。 [記入例]CPYNT:ILL可	
LTR	ローカルトレーシング		書誌レコードに記録される標準的な標目以外に、各参加組織が必要とする独自の標目を記録する。	選択

(澤田記)